

第 26 回 筑協「つくば 3 E フォーラム」委員会議事要旨（案）

- 1 日 時 平成 30 年 9 月 26 日（金）9：55～11：20
- 2 場 所 文部科学省研究交流センター 2 階 第一会議室
- 3 出席者 （順不同，敬称略）
 委員長：鈴木石根（筑波大）
 委員：飯塚一政（茨城県），長卓良（つくば市 代理：嶋崎），
 本田一匡（産総研），原澤英夫（環境研），篠原嘉一（物材研），
 小森栄作（農研機構），青木三郎（筑波大），石田政義（筑波大）
 TF 座長：（石田政義（筑波大）），中村真人（農研機構）
 事務局長：内海真生（筑波大）
 ホンパナー：幅淳二（高エネ研 代理：池田），広瀬登（筑協）

4 配付資料

- (1) 筑協「つくば 3 E フォーラム委員会」委員名簿 [資料 1]
- (2) 第 25 回筑協「つくば 3 E フォーラム」委員会議事要旨 [資料 2]
- (3) 平成 30 年度事業計画 [資料 3]
- (4) 各タスクフォースの平成 30 年度活動計画について
 ・次世代エネルギーTF [資料 4-1]
 ・バイオマスTF [資料 4-2]
 ・都市構造・交通システムTF [資料 4-3]
- (5) 第 12 回つくば 3 E フォーラム会議概要 [資料 5]
- (6) つくばサイエンスコラボ賞等について [資料 6]
- (7) 諸報告 [資料 7, 8]

5 議 事

議事に先立ち，委員長から，新委員の紹介があった。

- (1) 第 25 回筑協「つくば 3 E フォーラム」委員会議事要旨の確認について
 委員長から，各委員にメールにて照会・確認済みである旨の説明があり，異議なく確認された。
- (2) 平成 30 年度事業計画について
 委員長から，資料 3 に基づき，今年度の事業計画は，前年度に承認された事業計画に基づいて進めている旨の発言があり，変更点等について説明があった。
- (3) 各タスクフォースの平成 30 年度活動計画について
 ○次世代エネルギーシステムタスクフォース
 座長から，資料 4-1 に基づき，今年度も茨城県の独自性を生かした水素ステーション誘致促進活動及び水素関連シンポジウム等への協力を行っていく旨の説明があった。また，水素ステーションの誘致については，車への供給だけではなく，

地域エネルギー供給を含めた水素利用について提案していきたい旨の発言があった。

関連して国土交通省「省 CO₂ 先導プロジェクト 2018」に採択された TF の構成メンバーの「安藤ハザマ次世代エネルギープロジェクト」について TF として連携協力していく旨の説明があった。

○バイオマスタスクフォース

座長から、資料 4-2 に基づき、今年度も「藻類バイオマスエネルギーの実用化」（つくば国際戦略総合特区事業）について、TF メンバーのそれぞれの専門分野での貢献を継続すること、アクアポニクスに関しては、技術をマニュアル化し、積極的に情報発信を行っていくことの説明があった。

関連して、10 月開催の第 17 回世界湖沼会議展示会にアクアポニクスを出展する予定である旨の報告があった。

○都市構造・交通システムタスクフォース

事務局から、資料 4-3 に基づき、今年度も都市構造と自動車 CO₂ 排出量のデータ整備、エコドライブ普及（環境研）、カーシェアリングシステムの利用促進（筑波大）、環境負荷低減につなげるため宅配ロッカーの設置場所の検討と設置効果検証（つくば市・筑波大）に取り組んでいく旨の説明があった。

(4) 第 12 回つくば 3 E フォーラム会議について

事務局から、資料 5 に基づき、日程、メインテーマ等について説明があり、次のとおり了承された。

日時：平成 31 年 1 月 12 日（土）13:30~17:00

場所：つくば市役所会議室

メインテーマ：SDGs の中の 3 E（仮題）

また、事例報告のテーマ、講師の候補者等に関して、情報提供等をお願いしたい旨の依頼があった。

委員長から、フォーラム会議内容の詳細については、事務局に一任いただきたい旨の発言があり、了承された。関連して、委員長から、同日の昼に第 3 回アドバイザリーボードを開催予定である旨の説明があった。

その他、TF に関する進捗を報告する機会を設けられないかという旨の提案があった。

(5) つくばサイエンスラボ 2018 について

事務局から、資料 6 に基づき、昨年度に引き続き「つくば 3 E フォーラム」としての、共催・出展は行わず、つくばサイエンスラボ賞等の選考及び表彰を担当する旨の説明があり、今年度も各賞の審査に協力いただきたい旨の依頼があった。

(6) 諸報告

事務局から、資料 7, 8 に基づき、世界湖沼会議展示会出展、サイエンスツアーに

ついて報告があった。

(7) その他

委員長から、つくば市の環境モデル都市の指定が平成 30 年度で終了、6 月に新たに SDGs 未来都市に選定され、環境から SDGs にシフトしている印象もあるが、3 E F の目標である CO₂ の 50%削減に向かって可能なことについては取り組んでいきたい旨の発言があり、意見交換が行われた。

主な意見

- ・環境から SDGs へ軸足を移したわけではなく、SDGs は環境問題を含め、包括的に地球全体のあるいは人類全体の多様な問題を取り込んだもので、3 E F の活動はその中の一躍を担うのではないか。
- ・3 E F を再定義する時期に来ているのではないか。
- ・CO₂ の 50%削減目標は、現実的には高すぎるのではないか。このまま 3 E F の目標として続けるのか、つくば市としての課題でもあるが見直しの時期ではないか。
- ・3 E F の位置づけは提言体なのか、実行体なのかを定義した方が良いのではないか。
- ・特区の「藻類バイオマスエネルギーの実用化」はバイオマス T F から発展したものであり、次世代エネルギーシステム T F でも水素利用についての活動を行っている。
- ・毎年、つくば 3 E フォーラム会議を開催し、活動紹介や他の自治体の環境への取組等を紹介し、市や市民の温室ガス低減の活動につながるような情報提供を行っている。
- ・研究開発、技術開発はサステイナブルであり、全体を見据えたランドデザインが必要であり、コストがかかっても実行するという気運づくりができれば、50%削減の端緒となるのではないか。

次回日程 平成 31 年 3 月中旬頃を予定

以 上